

⑥内埜品子の墓・石井十次の詩碑

十次の最初の妻、品子の墓。円常寺に放置されていた品子と院の子供たちの墓を整備しようと、地元住人らが「岡山石井十次顕彰会設立準備会」を結成し、2009年に完成した。品子の出身の宮崎県にも「石井品子」、三女の「石井基和子」、十次の二番目の妻の「石井辰子」の墓が建てられている。

⑧上代淑・大西絹・大西祝の墓

上代は山陽英和女学校に赴任後すぐに岡山孤児院の支援活動に参加し、外国人の来院時に通訳したり、英文を和訳したりした。大西絹は大西祝の叔母で、中川横太郎の姪。山陽の創立に携わった。哲学者の大西祝は御成町に碑が設置されている。中川は伯父。



⑩岡山博愛会

アリス・ペティ・アダムスが1891年に来岡し、貧困児童との出会いから、日曜学校を開き救済事業を始めた。その後、私立花畑尋常小学校、花畑施療院、岡山博愛会の基礎となる岡山博愛会施療院を設立。その事業は、岡山博愛会病院やアダムスホームを中心に現在も続く。岡山博愛会門田屋敷クリニック前には十次の胸像が設置されていたが、院の江崎への移転後、院内に保管されている。



⑫山田耕笹の碑

十次が間借りした三友寺に、エドワード・ガントレットとその妻の恒子が暮らしていたことから、十次とガントレット夫婦には親交があった。耕笹は姉の恒子を頼り、少年時代を三友寺で過ごした。三友寺の正門には、耕笹がガントレットから作曲や卓球、エスペラントの指導を受けたことが記された碑が建てられている。また、耕笹が岡山城や後楽園を散歩していたことから、石関町にも2020年に碑が設置された。



⑦新天地育児院

児童養護施設の新天地育児院敷地内に石井十次記念館、石井十次像が設けられている。岡山孤児院の家族舎の一棟が移築された記念館は、1966年に財団法人石井十次記念聖園に譲渡されたが、聖園の解散により、1981年に新天地育児院に譲渡された。

⑨炭谷小梅の墓

小梅は十次に慕われ、孤児院最大の支援者となる。「岡山孤児院の母」と呼ばれ、品子が亡くなった時も、院の運営のために十次の再婚を斡旋した。墓の存在は長らく知られていなかったが、1999年に山陽学園大学の学生が発見した。



⑪中川横太郎の碑

社会事業家で、十次が入学する岡山県医学校の設立やキリスト教布教に貢献した。芸者だった炭谷小梅を囲っていたが、信仰に触れた小梅は中川と別れ、自立の道を模索し、孤児院支援に繋がった。中川は生前葬を行い、経営難の山陽学園に寄付するなど奇人として知られる。岡山城の近くに「健忘斎中川横太郎君之碑」と刻まれた碑が建てられている。



⑬京橋

「石井十次日誌」には、1888年に「襤褸の軒下学校を開く」と記載がある。孤児たちが京橋の軒下にたむろしていたのを十次が声をかけて、数日間「軒下学校」を行ったが、長続きはしなかった。

参考：大正十年三月「岡山新市街地図」
驛々堂旅行案内
2000年4月「岡山県万能地図」山陽新聞社
協力：安原尚蔵、松田泰明、石井十次に学ぶ会 他

おかやま タイムリーフ散歩



作成：山陽学園中学校・高等学校
図書委員会
703-8275
岡山市中区門田屋敷 2-2-16
発行：2021年9月

門田屋敷周辺は福祉と教育の礎を築いた偉人の息吹が残る街です。なかでも、岡山孤児院を設立した石井十次はその先駆者だといえます。十次が繋いだのネットワークをマップにまとめましたので、明治期・大正期の風を感じながら散歩してみてください。

【石井十次(1865-1914)とは】児童福祉の概念がなかった時代に、日本で最初に孤児院を設立。孤児に教育を与え、手に職をつけさせ、自立へ導いた。救済した孤児の数は3000人に及ぶ。その功績から「児童福祉の父」と呼ばれる。



①山陽学園高校

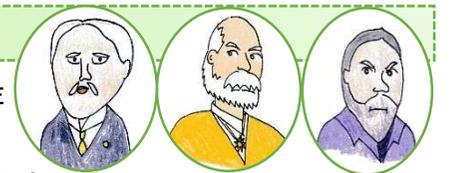
1947年まで「山陽高等女学校」という名称で岡山孤児院の北側にあった。生徒は院の経営難のたびに金銭や衣類を贈り、十次は女子に山陽への入学を薦めた。十次の娘の友子も山陽高等女学校の卒業生。

③徳富蘇峰の碑

ジャーナリストで、十次と親交があった徳富蘇峰が、岡山孤児院の敷地内に植えたと言われるクスノキと石碑だが、実際は、蘇峰が十次に宛てた手紙から、蘇峰の父(徳富一敬)から送られてきたクスノキの苗を植樹したものだと考えられる。

⑤宣教師館跡

玉井宮東照宮の参道下に宣教師館が建てられ、(左から)岡山孤児院を最初に世の中に紹介した J.H.ペティー、岡山初の日曜学校を開設した J.C.ベリー、受洗した十次と伝道活動を行った O.ケーリが住んでいた。



②三友寺

1887年に三友寺(臨済宗)の一室に岡山孤児院を開設。岡山大空襲により本堂は焼けたが、山門は残った。隣接の三友保育園内には「岡山孤児院祈禱場」という碑が建てられている。(見学不可)



④案内看板

2017年度から岡山市が実施する、歴史や文化資産の由来等を看板により紹介する事業に、日本イエス・キリスト岡南教会が「岡山孤児院跡」の案内を応募した。初年度(2017年)に採用され、岡南教会に向かって左側に設置されている。